

3 番 和 田

皆様、おはようございます。それでは、一般質問をさせていただきます。

受付番号1番、質問議員3番、和田成功。

件名、「0～15歳の一貫教育保育の実現に向けて」。

近年の著しい社会変化の中において、次代を担う子どもたちには新しい時代を自ら切り拓き、たくましく生きていく力が求められている。

町・家庭・地域は、それぞれが役割と責任を自覚し、協働のまちづくりの視点に立ち、相互に連携を図りながら、教育・保育の環境を整えていくことが必要であり、次代を担う子どもたちが健やかに育つことができる環境づくりや、子育て世代が安心して子どもを産み育てることができるような、子どもに優しいまちづくりが求められている。子育て支援としても0～15歳の一貫教育・保育への取組は重要であり、当町の特色を生かした施策になれば、町のイメージアップなどにも寄与するものと考え、0～15歳の一貫教育・保育について問う。

1、0～15歳の一貫教育保育の実施に向けて、積極的に取り組んでいると思うが、進捗状況は。

2、当町ならではの貫教育保育をどのように捉えているのか。また、実現に向けての課題は何か。

3、地方創生の鍵ともなり得る郷土愛の育成について、一貫教育保育の中で、どのように取り組んでいくのか。

4、GIGAスクール構想について、ICT支援員が配置され、推進していく環境が整ったと思うが、今後の具体的な取組は。

以上。

議

長

答弁願います。

町長。

町

長

それでは、和田成功議員から「0～15歳の一貫教育保育の実現に向けて」の御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の、「0～15歳までの一貫教育保育の実施に向けて、積極的に取り組んでいると思うが、進捗状況は」についてであります。現在、町では、園や各学校の代表者と福祉課及び学校教育課の担当者で構成

した「0から15歳までの一貫教育・保育推進検討委員会」を開催し、「0歳から15歳までの一貫教育・保育基本方針」の策定に向けて検討を進めております。

5月31日の第1回検討委員会では、基本方針の骨子や概要等について検討いたしました。8月31日の第2回検討委員会では、各園、学校からの意見等を集約し、より具体的な取組等について検討を行いました。今年度中に基本方針を策定し、令和4年度から基本方針を基にした取組を行ってまいりたいと考えております。

次に、2点目の御質問の「当町ならではの1貫教育保育をどのように捉えているか。また、実施に向けての課題は何か」についてであります。園、学校が全て公立であり、1中学校区に設置されているという本町ならではの特色ある教育環境を生かし、様々な教育課題・ニーズ等にも柔軟に対応していくために、乳幼児期の保育と学びの場である幼稚園・保育園・こども園、学校教育の場である小・中学校をつなぎ、「教育」と「支援」を柱にして、0歳から15歳までの切れ目のない連携・支援のできる1貫教育・保育を進めてまいりたいと考えております。

また、町ではこれまでも、園・学校の連携教育を進めてまいりましたが、この中で、子どもたちの発達段階に応じた教育・保育活動への相互理解、学びの連続性と個々の指導者の資質・能力を高める必要性などの課題が見えてまいりました。

このため、幼稚園と保育園・こども園の町の担当課が分かれていることについて、令和4年度から担当課を一元化し、各園の情報を共有した中で小学校へつなげていきたいと考えております。

次に、3点目の御質問の「地方創生の鍵ともなり得る郷土愛の育成について、1貫教育保育の中で、どのように取り組んでいくのか」についてであります。幼児教育・保育の場では「山北にふれる」をキーワードに、園外保育等で、地域の自然、人、公共施設、小・中学校等への訪問を積極的に行い、滑らかな接続へとつなげてまいります。

また、小学校では、「山北を知る・山北を学ぶ」をキーワードに、山北の自然や歴史、文化、行事に、触れる、調べる、参加することを通して、地域

や地域活動に主体的に関わろうとする態度や意欲の育成を図るとともに、実際に訪れ、町全体の歴史や産業等に関わる人々の思いに触れ、山北を誇りに思う心の育成に努めてまいりたいと考えております。

さらに、中学校では、「山北に学ぶ・山北に広げる」をキーワードに、これまでの地域学習の経験を学習に取り入れ、グローバルな視点から地域を見つめることで、町のよさを再認識する学びを進めております。

また、地域貢献への積極的な参加を促し、地域の方との関わりを通して、郷土を愛し、町の将来に広く関わる人材の育成を目指して取り組んでおります。

次に、4点目の御質問の「GIGAスクール構想について、ICT支援員が配置され、推進していく環境が整ったと思うが、今後の具体的な取組は」についてであります。現在、新規に導入された端末機器について、各学校でICT支援員等による研修を実施し、教職員の活用能力の向上や授業等への効果的な生かし方について実施、評価、検討等を行っております。

小・中学校の校内研究授業では、感染症防止対策として、モニターによる別室での授業参観を行うなど、異校種間のオンラインでの研修等に生かすため、一貫教育・保育の推進、充実に向けて、ICTの活用について、さらに取り組んでまいります

議 長 3番、和田成功議員。

3番和田 それでは、再質問させていただきます。

まず最初に、一貫教育・保育とすることの真の狙いといいますか、その辺をもう少し具体的に説明願いたいと思います。

議 長 教育長。

教 育 長 0から15歳の一貫教育・保育の実施に向けて、これは急に始まったことではございませんで、山北町が統合の関係で、小学校、中学校、最終的には1校ずつになると。そして、そういう中で、今後の中では、一貫、いわゆる校数が減って各学校のそれぞれの主体性を持って取り組んできたわけですけども、それをさらに、この縦のつながり、こういったものを一貫的な考えの下でやっつけようというのが一つの考えです。たまたまというか、山北町は園が公立でございます、全て。そういうことで、校長園長会も、当初は福祉課

のこども園、あるいは保育園等、幼稚園、岸幼稚園、幼稚園ですね。幼稚園、小中学校等、ばらばらに、別々にやっておりました。それを園長校長会で一つにまとめて、町の方針、考え方を共有していこうという中で進めてきました。

さらには、園がそれぞれ独自の研究会を立ち上げて研究しておりましたけども、「こども研究会」というように、形をつくりまして、共通的に園での学びを、保育をしっかりと見ていこうという中で、そういう縦の関係、横の関係、そういったものをつくってきました。

さらには、数年前にコミュニティスクールを実施しました。いわゆる地域との関係、こういったものも重視していこうという中で、斜めの関係も重視していこうという考えの下で取り組んできたということでございます。

そういう中で、今回0から15歳の一貫教育・保育の在り方を、基本方針を策定する。そして令和4年度から実施という中で、経緯について、今説明させていただきましたけども、一番の大きなところは、学びと保育、これを一つにする、いわゆる業務、福祉課と、これまで教育委員会の学校教育課とのそれぞれのすみ分けはありましたけども、これを一つの課で一元化する、これがやはり一番大きな狙い、目的でございます。様々ないろんな課題が今、いろんな面に出ております。そういった面で、先生方の資質能力の問題、あるいは虐待の問題、家庭での貧困の問題、いろいろ子どもたちを取り巻く環境、いろいろ問題が出ています。そういったものを一元化の中でしっかりと取り組んでいこうという考えが基本的な考え方でございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今、一貫教育・保育の狙いについて御回答いただきましたけれど、少子化に伴う学校の統廃合が進んでいることもあり、これらの問題を解決に向けて、2000年代より自治体独自の取組として、小中学校の9年間を一貫させた教育が登場していると。2016年度ぐらいから制度化され、行政改革の名の下に業務の一任化に取り組むだけではなく、次代を担う子どもたちにとって最良の教育及び保育の環境を整えることが重要であると考えます。その辺についてはいかががお考えでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 まさしく今言われたように、先ほど私のほうから話をさせていただきましたけれども、こういった一貫教育・保育をすることによって、子どもたちの保育、学びが一つの考え方の下において、町として進めることが可能じゃないかというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 多くの自治体で一貫教育等の動きがあるようではございますけれども、その背景には子どもの学習意欲の低下や小1プロブレム、また中1ギャップなどもあります。まず、小1プロブレムについてどのように考え、どのように取り組んでいかれるのか、その辺をお聞かせください。

議 長 教育長。

教 育 長 一貫教育は、今いろんな全国にも広まっておりまして、かなり取り組んでいるところがあります。その場合には、小中の一貫教育、あるいは、小中高まで入れているところもございますし、あるいは、幼稚園等の幼小中の一貫教育、そういった面で取り組んでいるところがあると思います。

ただ、山北町は、0歳からという、このところがキーワードじゃないかなというふうに思っております。ですから、全国で進められている一貫教育をさらに業務を一体化する、先ほど話をさせていただきましたけれども、業務を一体化することによって、さらに進んだ取組になっているというふうに思っております。そういう中で接続という意味で、幼稚園、こども園、保育園から小学校に入る、そのときにどうやってつなげていくかと。あるいは、小から中に移行する、そんなところ、接続のところを滑らかにどう進めていくかと、このところがやはり一番今大事なところじゃないかなというふうに思っています。そういった面では、幼稚園、こども園、保育園から学校に上がる、いわゆるアプローチカリキュラムという、どうやってつなげていこうかという。

それから今度逆に、小学校が受け入れる場合について、スタートカリキュラムという、最初にいきなり小学校の学習をぱっと出すんじゃなくて、幼稚園、こども園の育ちをしっかりと把握した中で、その滑らかに学校教育に入ってくれるような、そういったカリキュラムづくりを今進めているところでございます。ですから、当然、0から15歳の一貫教育・保育の中に、あり方

基本方針の中には、そのところをしっかりと位置づけて取り組んでいくというところでございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今、御答弁の中にあつたアプローチカリキュラムとスタートプログラムですか、その辺は園と学校等の連携、情報共有等はきちんと図られているのか、現状、お願いします。

議 長 教育長。

教 育 長 既に、実際に先生方が小学校に行って、どういう学習しているのか、あるいは、小学校の先生が幼稚園、こども園に行って、どういう保育・教育をしているのか、そういった授業研究のことをやっております。そういったものをさらに進めて、実際にカリキュラムをつくっていこうという。ですから、考え方はもう既に共有してございます。そういった中で、さらに一歩進んだものをこれからつくっていくという、そういう考え方でございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 まず御回答、理解できましたので、先ほど言いました小1プロブレムについて、山北町、現状をどのように把握されているか御説明願います。

議 長 教育長。

教 育 長 子どもたちが小学校に入って、すぐに例えば、45分授業をずっと席に座ると、なかなか難しいという中で、ですから幼稚園やこども園、保育園のほうでは、小学校へ行くと、そういう授業形態になりますので、そういった面をしっかりと経験させていくということも必要かなというふうに思っています。ですから、そういう意識というんですか、そういったものをお互い共有して取り組んでいます。ですから、小学校でもすぐに45分間座っている授業形態をするんじゃないなくて、活動場面を多く取り入れながら進めるという状況の中で、なかなか、それが全てうまく順応できるということではないというふうに思っております。ですから、多少なりともそういった課題というのは見えておりますので、そういった面をさらに深めていくと。

さらには、やっぱり小学校のほうの人的な支援、学習支援員とかそういった面の支援も必要じゃないかなというふうに思っていますので、町としては、そういった面で学習支援員等、配置をしっかりと行っているという状況でござ

ございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 続きまして、産声を上げた瞬間から周りの大人は、その子どもの成長に対して責任を果たしていくことが必要であり、幼稚園、こども園、保育園に入園するまでの家庭の責任、幼稚園、保育園、こども園、小学校、中学校で関わる保育者や教員の責任、それぞれの立場や段階で、その責任は違いますけれど、その時期に身につけるべきことが確実に身につけているかどうかを見極めることが必要であると考えます。見極めといいますか、検証等を現在、どのように行っているのか、御説明願います。

議 長 教育長。

教 育 長 やはり学校だけで完結できるものではないので、やはり、第一義的には家庭だというふうに思います。やはり家庭の中でしっかりと子育て、そういったしつけというんですかね、ルール、そういったものをしっかりと身につけて、そして学校教育の中でそういった面を生かしていく。さらには、周りの地域の方々にも温かくそういった面を見守っていただくと、これがやはり一番大事なかなというふうに思っています。

検証という話がありましたけども、これについては、コミュニティスクールを行っていますので、実際に保護者へのアンケートですとか、あるいは地域の方にいろいろ意見をもらうとか、そういった面で検証等行っております。コミュニティスクールについては、年3回、基本的には行っておりますので、そういった面でいろいろ課題等がありましたら、その辺のところを解決していく方策を考えていかなければいけないというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 理解しました。

それで、当町としては、一貫教育・保育ということなので、保育という部分で、小1の壁という保育の部分の課題があるかと思います。現状、放課後児童クラブ等の運営で、小1の壁解消に向けてやられているのは理解していますが、今後どのような展開をしていく考えがあるのか、御説明願います。

議 長 教育長。

教 育 長 児童クラブもやはり関わってくるところだと思います。したがって、

一貫教育・保育の中にしっかりとその辺の学童についても、しっかりと位置づけて、その辺の業務内容等も関わりながら進めていきたいというふうに考えてございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 しっかりと取り組んでいただきたいと思います。

続きまして、中1ギャップのほうについて質問を移らさせていただきますけれど、中1ギャップ、山北町、現状をどのように把握されているか御説明願います。

議 長 教育長。

教 育 長 中1ギャップと申しますと、一般的に言われるのは、不登校が急に小学校段階から中学校になると増えるというような状況でございます。かつて、町でも、かなり不登校の数がいた時代もあります。そういった中で、なかなか少しずつ解消していくという状況でございます。そういった中で、ゼロとは言いませんけども、何人か不登校の子いますけども、以前よりは大分少なくなってきていると。その辺のところはやはり接続の部分が、滑らかな接続ができてきているのかなというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 不登校の生徒さん、以前よりは少なくなったと。接続に向けての取組の効果であるというふうに思いますが、不登校児、いろいろな理由があるとは思いますが、不登校児がゼロになるような一貫教育・保育に向けて、今後も積極的に取り組んでいただきたいと思います。

続きまして、ちょっと関連と申しますか、インクルーシブ教育というのに取り組んでいただけますけど、この中の0から15歳の一貫教育・保育の中で、インクルーシブ教育について、どのように取り組んでいかれるか、お考えを説明願います。

議 長 教育長。

教 育 長 インクルーシブ教育も大事な柱だというふうに思っております。今、それぞれ特別支援学級がございます。そういった面での小中のお互いに授業を見合ったり、どういう子どもたちが来るかという、そういうふうな情報交換ですとか、情報共有、そういった面を实际してございます。ですから、そうい

った子どもたちも不安を持って中学校に入ることのないように、その辺の活動も一緒にしたりしてございます。いろんな面で子どもたちに不安がないように、そういった面を解消するように取り組んでいます。ですから、子どもたちの中で、そして教員同士の中で、そういった面をしっかりと共有しながら進めていく。

ですから、インクルーシブ教育、既に小学校での取組、中学校の取組、これがばらばらであってはならないと思いますので、その辺のところをしっかりと共有しながら進めていくと、これが大事かというふうに思っています。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 情報共有をしながらきちんと連携を取って、インクルーシブ教育等も取り組んでいられるという御回答があったので安心しましたが、現場の声を聞いて、型にはまらず柔軟に、その子に最適な環境をつくってあげること努力しているという声も聞いております。今後もそういうふうに一人一人多様性が今後増えてくると思うので、そういったところで柔軟に今後も対応していただきたいと思います。

続きまして、先ほどもありましたコミュニティスクール、学校運営協議会制度というんですか、その辺について今後一貫教育・保育でどのように行っていくのか、御説明願います。

議 長 教育長。

教 育 長 コミュニティスクールを導入しまして、まだ3年足らずだというふうに思っています。そういった中で、今現在、それぞれ小学校、中学校で学校ごとに取り組んでございます、コミュニティスクールを。今幼稚園はございません。これを来年度から、一貫教育・保育に、あり方基本方針の中に入れ込んでおりますので、幼稚園もコミュニティスクール化をしたいというふうに考えてございます。今、保護者会等で活動しておりますけども、そういった面で、保護者の意見、あるいは地域の方々の園に対する、園運営についての承認をいただくような、そういった面での園でのコミュニティスクールも考えてございます。

さらには、将来的に、今すぐじゃないんですけども、将来的には、この一貫教育を進めていきますので、それで今やっている小中別々の運営協議会を

一つにまとめていきたいなというふうな思いはございます。今後の中で検討していきたいというふうに思っています。一貫教育はやりますので、その中でやはり小中一つのコミュニティスクールを形成したいと、これが今、将来的に検討段階に入っているという段階でございます。令和4年度から実際に、今度はこれまで小中のそれぞれの委員を決めて、そしてやっておりましたけれども、そこに小学校のコミュニティスクールには中学校の校長も入る、中学校のコミュニティスクールの運営委員には小学校の校長も入ると、そういった接続をまず進めていくということで、令和4年度から、今実施の予定で、もう既に動いているという状況でございます。お互いに小学校のコミュニティスクールの運営委員の方々には、中学校に行ってもらって、中学校の様子を見てもらう。逆に中学校の運営協議会の方々には、小学校へ行って見てもらう。そして、それぞれの思いの中、コミュニティスクールの中でいろいろな意見を伺いながら、こういった一貫教育・保育のほうを進めていきたいというふうに考えてございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今後もコミュニティスクール等、積極的に取り組んでいかれることを期待しております。

コミュニティスクールだとやっぱり地域住民と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育むと、そういった目的もあるかと思いません。そうしますと、3番で質問させていただきました地方創生の鍵ともなり得る郷土愛、この育成、やはり地域との連携というのは、今後もより強化していく必要があると。そういった中で郷土愛の育成でしたり、地域の文化歴史、そういったものを理解する、やっぱりそういうことの活動というのは、やはり教育として、保育として必要だと思うんで、今後も地域とより一層連携を強化していく、そういうことが必要だと思いますが、その辺について、どうお考えでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 「山北町の教育」というのを、毎年出しております、教育委員会から。その中で、山北町の目指す子ども像が五つ設定されております。その中に、国際感覚とともに、郷土に愛着を持つこと、これがうたわれています。これに

基づいて、いろんなカリキュラムをつくったり、いろいろな体験活動、活動等しながら進めているということで、先ほど、答弁のほうにもありましたように、園においては「山北に触れる」、これをキーワードにしています。それから、小学校については「山北を知る、山北を学ぶ」という。そして、中学校では「山北に学ぶ、そして山北に広げる」と、こういうふうなキーワードの中でそれぞれ一貫ですので、それぞれがしっかりと発達段階に応じて郷土愛を培うように、そういう設定でこれからさらにそののところを進めていくという考えでございます。

さらには、今山北高校と連携を、協定を結んでおります。山北高校にも、そういった面で今回の9月号ですか、広報のほうに1年生で知る、それから2年で探る、3年で実践するというので、最終的には提言をいただくという、こういうふうな山北高校は考え方がございますので、そういった面では、園、小、中、高まで、見据えた中で進めていきたいというふうに考えてございます。山校の校長先生には、この辺の一貫教育・保育の考え方は、既に私のほうから説明のほうさせていただいて、高校のほうの連携もさらにもっと深めましょうという話をさせていただいているというところでございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 0から15歳の一貫教育・保育、これを実施に向けては、やはり連携というのは大変重要なところになってくると思います。学校間、園との連携、また地域との連携、保護者等との連携、こういうことが一体となって初めて、すばらしい一貫教育・保育の実現が可能ではないかというふうに考えます。

また地域、先ほど言った郷土愛、地域に触れるということで、園児たちは、D52に触れたり、祭り囃子の保存会の方に太鼓の演奏を見せていただいたり、そういった地域と触れ合う、また今年は地域の方の協力を得て、こども園では田んぼでの泥んこ遊び、また、田植体験、山北ならではの、山北ならではのそういった自然体験ですか、そういうものをどんどん取り入れて、山北らしい、山北ならではの、山北にしかできないような教育・保育というのを今後も積極的に進めていっていけば、郷土愛等につながって、地方創生の担い手、いろいろなところで担い手不足ですけど、子どもたちがこの担い手になり得るような教育・保育に取り組んでいっていただきたいと考えております。

続きまして、ちょっと関連では4番のGIGAスクールについてですけど、現状、以前に質問させていただいたときに、GIGAスクール、環境が整っておしまいでないと、環境が整ってどう活用していくか、そこが課題であるといったところで、ICT支援員等を配置されておりますけれど、今現状どういった形になっているのか、その辺について説明願います。

議 長
教 育 長

教育長。
GIGAスクール構想、一人一台パソコンということで、さらに山北町のデジタル教科書も活用できるように取り組んでいるところでございます。いろいろな機器も充実していきまして、いろいろなところでその活用を図らなければいけないということで、やはり第一には、それを使う教職員が資質能力、こういったパソコン等のICTに力をつけなきゃいけないということで、ICT支援員の方々に、ただ年とか月とかそういった定期的な研修会だけじゃなくて、日常的な質問ですとか、やり方だとか、そういったものを習得できるそういうところが一番大事なかなというふうに思っています。そういった面では、ICT支援員は配置できましたので、そういった面では、かなり解消していきっているということで、先生方も積極的に授業に取り組んでいるというところでございます。

ただ、なかなか先生方、能力的になかなか非常にたけている教職員もいれば、ちょっとという方も中にはございます。ですから、そういった面を、全体をやはり引き上げる、そういう面での活用というんですか、これが大事なかなというふうに思っています。既に授業で積極的に一生懸命取り組んでいる先生方も多く見ますので、そういった先生方にどんどん引っ張っていただいて、支援員の後押しの中で、先生方のそういった活用能力をしっかりと身につけることが必要かなというふうに思っております。

さらには、子どもたちがどう活用するかというのをやはり一番大きな課題かというふうに思っております。そういった面で、今回、夏休み期間中にタブレットを中学2年生に、全員に持ち帰る形を取りました。当初は大分心配もしました。先生方も大分心配しておりました。家に持って帰って、もし壊れたらどうするのかとかいうようなことだとか、ちゃんときちんとルールを守って、これが使えるかどうかとかということでの心配がございました。た

だ、試行的にやってみないと、駄目だ駄目だだと、前に進まないだろうということで、学校と教育委員会と話し合いをしまして、中学2年生だけ、まず今年度やってみよう。これがうまくいくようになったら、中学全体、さらに小学校まで広げていきたいという考えでございます。そういった面で、課題を提示したり、あるいはアンケート集約のときもこういったタブレットが活用できますし、さらには今回、山北町は休業体制を取ってませんが、もし万が一休業になった場合にはそれがすぐに活用できる、そういう体制づくりをしっかりと取り組んでいくことが必要じゃないかというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 答弁にもありましたICT支援員ですか、現状、川村小学校でちょっとお聞きしたところ、週に2日程度の配置だということなんですけど、それで間違いないでしょうか。

議 長 学校教育課長。

学 校 教 育 課 長 ICT支援員、今の段階ですと、GIGAスクールサポーターということでお願いしております。週2日ということで、それぞれ小学校と中学校に1回ずつ行きますので、実質的に小学校、中学校、週1日、GIGAスクールサポーターは、勤務を1日させていただいております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今、御回答いただき、週1日ずつということで、子どもが軸でICT教育といえますか、タブレット、デジタル授業というんですか、そういったものがされている状況ではないと思うんですね。やはりもう少しICT支援員の配置、日数増やして、子どもたちを軸にデジタル授業等ができるような、そういった取組が今後必要だと思いますけど、その辺についてはいかがでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 町としましても、もっと日数を増やしていただきたいと、こう考えてございました。そういう計画もしていました。しかし、ただ単にICTのたけている人ではどうなのかなど。やはり教育という分野がありますので、子どもがどう使いこなすか、子どもにどうやって提供すればいいのか、そのこのとこ

ろが大事だということで、そういう資質を持っている方が実は少ないんですね。ですから、声かけの中、いっぱいしたんですけども、なかなかそれぞれ各学校が全て一斉にそういった方々やICT支援員を必要としますので、ですから当初はつけられないんじゃないかなという心配もしたところでございます。そういった中では、配置ができたということで一安心しているところですが、ですから、いっぱい、毎日いれば、それでこそ越したことはないんですけども、現状の中ではそこのところはなかなか難しいというのが現状であります。ただ、ICTをできる人を来てもらえればいいのかという、そういう問題じゃなくて、子どもに、どうそこのところを使っていくかと。この辺はやっぱり教育という部分がしっかりと把握している方じゃなければ、なかなかこのところは難しいんじゃないかなというふうに思っていますので、さらにそこのところはさらに充実できるように、今後も取り組んでいきたいというふうに考えてございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 GIGAスクール構想も始まって、まだ立ち上げて間もないので、その辺試行錯誤で大変かもしれませんが、今後も積極的に取り組んでいっていただきたいと。また、そういった授業に取り組んでいくと今まで受け身だった生徒が変化して、積極的に学ぶ体制ができたりとか、授業の進行が大幅にアップしたとか、授業に集中させる仕組みがくれたとか、時間や場所にとられない学習の実現等に役立つというようないい報告等もあります。

また、そういったことを活用して、ICT活用で効率化された時間をどのように有意義な時間にするかということも、今後の課題かと思えます。多少時間に余裕ができたとしたら、そこで山北ならではの体験学習だったり、地域と連携でいろいろなものを、山北のことを学ぶような時間に費やすことによって、郷土愛の育成等にさらにつながっていくのかなと考えます。

ちょっとICT、GIGAスクールというところの関連で、もう一点、一貫教育・保育ということで、山北町内には四つの園があると思うんですけど、その辺のネット環境、Wi-Fi環境等について現状はどのようになっているか御説明願います。

議 長 学校教育課長。

学校教育課長

幼稚園に関して御答弁させていただきたいと思います。

この9月の議会の補正予算のほうに、岸幼稚園のネット環境の整備ということで、補正予算上げさせていただいておりまして、この後、御審議いただくんですけれども、国のほうから補助金があるということで、そちらのほう、手を挙げさせていただいて、園のほうに各保育室、それと多目的室ですか、そちらのほうにW i - F i の装置を入れさせていただいて、多目的室に入ると教職員の部屋にも届くということで、園内はW i - F i 設備ができるような設備を今後入れて活用していきたいと、そういうふうを考えております。

議 長

福祉課長。

福祉課長

保育園、こども園でございますが、現在、国からまだ県を通じて補助要綱というのが出されておられません。これが示されましたら、しかるべきときに補正予算を計上させていただけたらと考えてございます。

議 長

和田成功議員。

3 番 和 田

当町としまして、0 から 15 歳の一貫教育・保育に取り組む姿勢を見せているのであれば、園に関してもW i - F i ネット環境等を整備する必要があると。今、学校教育課長のほうから、岸幼稚園への設置というお話はありましたが、三保幼稚園についてはどのように考えられているのでしょうか。

議 長

学校教育課長。

学校教育課長

三保幼稚園につきましては、現在のところ、1名の園児ということで、無線によるものじゃないんですけれども、ネット環境といたしましては、有線でつなぐことができっておりますので、そちらのほうで対応していきたいというふうに考えております。

議 長

和田成功議員。

3 番 和 田

今後、ネット環境整備というのは、大変重要になってくるというか、当たり前になってくる、そうした中で園児、生徒、児童等の交流、こんなコロナの時期なので、なかなか直接会って交流するというのは難しいと思うんで、ネット環境が整っていれば、モニター越しで交流なり、どんな小学生が中学校の活動を映像で見るとか、中学生が小学生の活動を見るとか、また園児が小学校の活動を見るとかというので、連続した一貫教育・保育というところ

に関して合致すると思うんで、その辺の取組は、今後積極的にしていく必要があると思いますが、その辺についてはどう考えますか。

議 長 学校教育課長。

議 長 教育長。

教 育 長 まさしく、ここで幼稚園のほう、国のほうの補助が出るということで配置、設置をしていきたいと。

保育については、ちょっと様子を見て、今後の中でやっていこうというような、これは町の考え方でございます。そういった面では、このネット環境、やはり、園でもただ、園同士の中でのつながりもありますし、園と保護者等のつながりもございます。ですから、かなり活用方法としては、いろいろ考えられるんじゃないかなというふうに思っています。ですから、これから入った場合については、さらにそのところ深めていきたい、学校だけの、園だけのものじゃなくて、それをさらに広げていくような、そういう活用方法を今後の中でしっかりと取り組んでいきたいというふうに考えてございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 まあ、ええ、現状、今コロナ感染拡大しておりまして、園でも、イベント等をやっても保護者の入場制限というのですか、そういうのがかかっているような状況でイベントが開催されていると、そういった中でネット環境が整っていれば様子を配信して、実際会場に来られない保護者等が見ることができると、日頃の園児の活動を見ることができると、そういった部分では安心・安全という子育てができるというところで、やっぱり今後必要になってくるかなと思うので、今後も積極的にその辺には取り組んでいただきたいと思います。

最後になりますけれど、0から15歳の一貫教育・保育実現に向けて、改めて、いろいろと教育長お話しいただきましたけど、町長として、どのように考えられているか、最後に御意見があればお聞かせ願います。

議 長 町長。

町 長 山北町には、0歳から15歳までが公立というような関係で、それを一貫して教育するというようなことは非常に町の特色としても、また非常に大事なことであるというふうに考えております。

ただ、一点だけ、今のお話を聞いている中で、GIGAスクール、あるいはICTに関して、若干違うというふうに感じましたので、そのところだけはお伝えしたいというふうに思っております。

私がカナダのほうに視察に行きましたときに、やはり小さいお子さんから高学年まで、実際には小学校の低学年、あるいは中学生ぐらいまでが一緒のところ学んでいる、学んでいるというよりか、実際にいろいろな発達障害であるとか、そういういろいろなものを持っている支援学級のようなものがございました。そのときに、カナダとしては、その専門家をたくさん配置しました。そういったような症状とか、そういったようなことに対応できる人を当初、今のそのところに大量に投入したんですけど、失敗しました。結局、そういうことで、求めているものは教育とかそういったことであって、支援員を増やせばいいとかそういうことではないわけです。ですから、基本的には子どもたちが分からないことを先生方も理解して、自分たちが理解できるように、お互いが支援員を使って能力をアップしていく、それがひいては、いろいろな教育の現場でお互いがよくなっていくという考えでありますので、カナダのほうはそういうような形でやりましたので、結局、その後一切、そういった専門家がオブザーバーとして週に何回だか来てもらって、先生方にこういうようなことが問題だけど、どうしたらいいかというのを専門家の意見を聞くようになって、それからうまくいくようになったというふうに聞いております。

ICTも同じようなことだと思います。支援員の皆さんは当然、そういうパソコンとかICTについては詳しいんですけど、学校教育、あるいはそういったようなことについては素人でございますので、そういったところをお互いに補完し合う、そんなような中でこの0から15歳が進んでいければ、私としてはいいのではないかとこのように思っておりますので、その辺はよろしく願いいたします。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 そうですね。ICT支援員を導入したからといって、直接子どもたちにいい影響があるとは限らないというのは分かります。町長がそのようなお考えがしっかり持たれているということで、今後、一貫教育・保育の中でのIC

T化というのに期待をして終わりにしたいと思います。
以上。